

# 佐賀市 52 歴史探訪

## しんかくじ しょうろう ほぞん しゅうり 真覚寺「鐘楼」の保存修理

佐賀市内には文化財指定された多くの木造建造があります。これらの建造物は、私たちの郷土の先人が創り出し、災害などをくぐり抜け、今日まで守り伝えられてきました。

しかし、これらの建造物は屋外にあるため、永い年月の間に老朽化あるいは損傷を受ける宿命を持っています。したがって、保存修理を行うことは、文化財建造物を後世に伝えるためにきわめて重要なことです。

今回紹介する伊勢町の真覚寺「鐘楼」は、元禄12(1699)年の建立と考えられている佐賀市重要文化財で、市内の寺院建築では最も古いものの一つです。

時代とともに消えゆく古建築の中で、300年を超える長い年月を耐えてきた真覚寺「鐘楼」ですが、平成14年6月に屋根の一部に陥没が確認され、このままでは浸入する雨水のために、建物の他の部分も破損する恐れが出てきました。そのため、平成15年11月から翌16年3月にかけて、屋根を中心とした建造物保存修理工事が真覚寺によって行われました。

工事は屋根を中心とした部分修理ですが、今後の建物の保全を考えて、新たな屋根瓦に葺き替え、瓦下地の野地板や垂木も新しい材木に取り替えられました。

瓦はすべて新たなものに取り替えられましたが、特に前のイメージを伝えるように留意されたものを使用しています。また、新しい材木には染料による古色仕上げが施されています。全体として、従前どおりの建造物の景観を生かすように細心の注意が払われて工事が行われました。

今はまだ、瓦が銀色に輝き違和感があるでしょうが、これからの風雪に耐えることで、歴史的建造物としての重みを取り戻すに違いありません。

### 一口メモ

- ・「鐘楼」とは寺院において梵鐘をつるすための建物をいいます。
- ・真覚寺には、肥前刀工の祖である佐賀市史跡に指定された「初代肥前国忠吉の墓地」もあります。



▲修理前の鐘楼



▲修理後の鐘楼屋根

